

秋のフィンランド&カナダで ダブルオーロラを観る!



フィンランド



カナダ



Finland & Canada

Rovaniemi, Saariselkä, Whitehorse, Yellowknife

ロヴァニエミ、サーリセルカ、ホワイトホース、イエローナイフ

最近、秋のオーロラが密かなブーム! 夏が終わり、まだ雪が降る前のほんのわずかな時季。

鏡のような湖に映り込む「ダブルオーロラ」は、レア度MAXの自然現象。

いくつかの自然現象が重なりあって初めて観られる、奇跡の絶景を観に行こう!

◎ オーロラのシーズン

オーロラは冬だけ出ているというイメージが強く、実は1年中出ている自然現象であることはあまり知られていない。ただし、オーロラは光であるため、星と同じように周囲が暗くないと観ることができない。夏の北欧やカナダは深夜まで明るい白夜のため、肉眼では確認することができないのだ。

白夜は4~7月の4ヵ月ほどで、それ以外の時期はすべてオーロラシーズン! ハイシーズンは12~3月の冬だけれど、最近では8月中旬~10月上旬頃の秋ツアーも人気。冬は空気が澄んできれいなオーロラが観られる反面、-30℃にもなる寒さが難点。秋なら氷点下にまで冷え込むことはまずないし、なにより凍りつく前の湖にオーロラが映り込む「ダブルオーロラ」は、秋だけのお楽しみ!

©Frozenmost / shutterstock.com

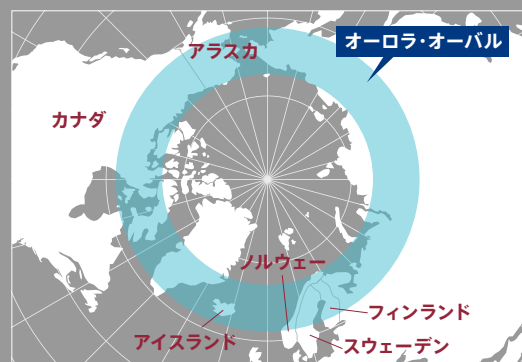




○ 世界のオーロラスポット

オーロラが出現するのは、北緯65～70度に位置するオーロラ・オーバルと呼ばれる帯の中。北欧諸国やアイスランド、カナダ、アラスカの北部は、このオーロラ・オーバルの中にすっぽりに入る。なかでもフィンランドとカナダは、日本人が訪れるオーロラ観賞地の人気ツートップ。日本発着のパッケージツアーはもちろん、現地ツアーも多く開催されている。

ちなみに余談だが、オーロラ・オーバルは南半球にもあり、北半球にオーロラが出ているときは、南半球でも同じようにオーロラが出ている。ただし南半球のオーロラ・オーバルの下は南極大陸と海。観賞できる場所がほとんどないため、ツアーが出ていないのだ。



Aurora
01
Destinations

Finland

フィンランド

北欧の人気旅行先といえば、ムーミンやサンタクロースの故郷としても知られるフィンランド。オーロラ目当てに訪れるなら、北部ラップランドに位置するふたつの町へGo!



①子供から大人まで楽しめるサンタクロース村。ロヴァニエミからは市バスで簡単にアクセスできる ②北極圏の自然や文化についての展示があるアルクティクム。オーロラ観賞のポイントでもある。町の中心からは徒歩15分ほど ③サンタクロース村には、北極圏を示すラインが引かれている ④フィンランドを代表するデザイナー、アルヴァ・アアルトが設計した美しい図書館

サンタクロースの村がある ロヴァニエミ



民芸品から北欧デザインの逸品まで、さまざまな店が揃っている。レストランはトナカイ肉などを使った伝統的なラップランド料理の店のほか、最近では創作ラップランド料理の店も増えている

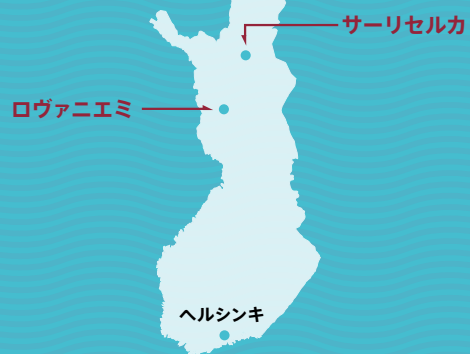
フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ロシアの北極圏(北緯66度33分)以北はラップランドと呼ばれ、先住民族のサーメがトナカイの放牧をして暮らす地。そのラップランドの、フィンランドにおける最大の町がロヴァニエミだ。町にはたくさんのツアー会社があり、秋からオーロラ観賞ツアーを催行している。

ラップランドの大都市だけあって、観光やグルメ、ショッピングなどオーロラ以外の楽しみも多彩。最大の見どころは、郊外にあるサンタクロース村。1年中サンタクロースに会える人気スポットで、記念写真を撮るためにたくさんの観光客が訪れる。周囲にはサンタクロース・ポストオフィスやショッピングアーケード、レストランにトナカイ牧場まであり、まるでサンタさんのテーマパークのようになっている。

秋のオーロラでは、冬のように昼間に犬ぞりなどのアクティビティを楽しむことができないので、ロヴァニエミのように都市としての魅力があるのも、大きなメリットになる。ただし大都市だけに街灯が多く、日没後も真っ暗にはならないため、オーロラを観るにはツアーなどに参加して郊外の湖や森などの自然に足を延ばす必要がある。



フィンランドの オーロラスポット





国立公園に抱かれた高原リゾート サーリセルカ

サーリセルカは、ロヴァニエミの北約300kmに位置する高原リゾート。ウルホ・ケッコネンというフィンランドの元大統領の名を冠した国立公園の麓にある村にリゾートを形成している。

村の周囲に広がる国立公園は、勾配が少なくとても歩きやすい。ハイキングは夏～秋に楽しめるが、最も美しいのが秋。赤や黄色、オレンジなどのパッチワークに彩られる森は、まるでおとぎの世界。ハイキングを楽しんだあとは、ゆっくりとオーロラ観賞へ。村には街灯がほとんどないので、村のなかからオーロラが観られるのもうれしい。ただし、近くに湖がないため、村からだ「ダブルオーロラ」のチャンスがないのは残念なところ。どうしても観たい人は、湖のあるイナリまで足を延ばす必要がある。

アーバンライフよりも、フィンランドらしい優しい自然を満喫したい！という人は、ロヴァニエミよりも断然サーリセルカがおすすめだ。



5 国立公園をはじめとする村の周辺では、今もトナカイたちの姿を見ることが出来る



6 村にある観光案内所には、先住民サメの衣装が展示されている 7 郊外にあるカクシラウッタネン・アークティック・リゾート。全面ガラスの部屋からは、寝ながらオーロラが観られる

旅のヒント in フィンランド

時差：日本より7時間遅れ。サマータイム時は6時間。

ビザ：180日間で90日以内の滞在なら不要。

通貨：ユーロ（2018年7月現在€1=131.7円）

物価：宿泊費や外食費など、日本よりも割高。

気候：四季がはっきりと分かれているが、地域により差が激しい。ロヴァニエミとサーリセルカのあるラップランドの秋は、8月下旬～10月頃。11月には雪が降り、昼間でも氷点下になる。

詳細は地球の歩き方北欧編、
arucoフィンランド、
Platフィンランドへ

発行：ダイヤモンド・ビッグ社
www.arukikata.co.jp/guidebook

本体：1,700円＋税（左）
本体：1,200円＋税（右）
本体：1,200円＋税（下）



フィンランドのユースホステル

Ylläs / Äkäslompolo - Kuerkievari

ADDRESS: Kievarintie 5,
Äkäslompolo, 95970, Finland
TEL: +358-44-2309540
E-Mail: booking@kuerkievari.fi
ドミトリー：6000円～

URL: <https://hihostels.com/ja/hostels/yll-s-k-slompolo-kuerkievari?linkid=980028>



Sodankylä / Raudanjoki - Hostel Visatupa

ADDRESS: Seipäjärventie 409,
Raudanjoki, 99510, Finland
TEL: +358-16-634133
E-Mail: visatupa@visatupa.fi
ドミトリー：3200円～

シングル：5000円～ / ツイン：6500円～
URL: <https://hihostels.com/ja/hostels/sodankyl-raudanjoki-hostel-visatupa?linkid=980028>





Canada

カナダ

カナダのオーロラ観賞地といえば、イエローナイフとホワイトホース。冬はイエローナイフがダントツ人気だが、秋のおすすめは、オーロラ以外の楽しみが満載のホワイトホース。

アウトドア+オーロラで楽しむ ホワイトホース

カナダの北部にある3つの準州は、称して「極北」と呼ばれる極限の地。最も西にあるのが、ホワイトホースのあるユーコン準州。ここでは、カナダらしい特大スケールのアウトドア体験がめじろ押し！夏の風物詩は、『水曜どうでしょう』で話題となったユーコン川のカヌーキャンプ。ホワイトホースから4泊5日かけて北上するツアーは、世界のカヌーイストたちの憧れ。8月中旬以降のツアーなら、ユーコン川の上に舞うオーロラを観ることも可能だ。

そのほか、アラスカとの国境付近にあるクアニアヤ、ユーコン準州第2の都市であるドーソン・シティの北にあるトゥームストーンなどの自然公園を訪れるのも、ユーコンならではの。特にツンドラの大が真っ赤に染まり、カラフルな絨毯のようになるトゥームストーン準州立公園の紅葉は、毎年9月中旬頃がシーズン。秋のオーロラシーズン真っ盛りでもあるので、ぜひ一緒に訪れてみて。ユーコンの自然を楽しむには、最低でも1週間は必要。オーロラだけを目当てに湖畔のロッジにこもるのもいいが、せっかくなら大自然を満喫して、プラスオーロラが観られるといい、くらいの気持ちで出かけてみるのがおすすめ。



© ヤムナスカ・マウンテン・ツアーズ



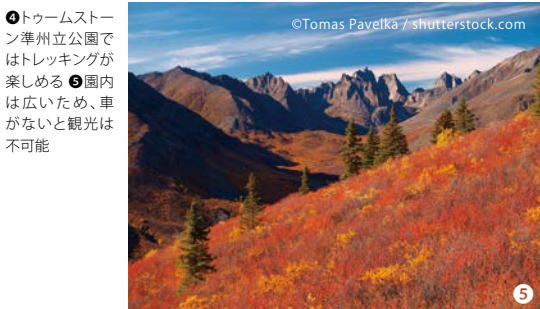
①日本人経営のツアー会社、ヤムナスカ・マウンテンツアーズ (URL: www.auroranavi.com) のツアーでオーロラ観賞。秋も9月頃から営業している。②ユーコン川カヌーキャンプ。番組だと罰ゲームだったが、とんでもない!



③ユーコン川沿いに開けた町、ホワイトホース。町外れにはかつて活躍した外輪船が展示されている



©Tomas Pavelka / shutterstock.com



④トゥームストーン準州立公園ではトレッキングが楽しめる。⑤園内は広いので、車がないと観光は不可能

カナダの オーロラスポット

ホワイトホース

イエローナイフ

バンクーバー



弾けるオーロラを観るならここ！

イエローナイフ

オーロラ観賞率の高さから、冬は人気No.1となっているイエローナイフ。秋でもオーロラ観賞だけが目的なら十分に楽しめるが、町としての魅力に乏しいのは残念なところ。ただし現地発着のオーロラ観賞ツアーに参加すれば、昼間もたくさんのオプションツアーがあるので、時間をもてあますことはあまりない。イエローナイフを代表するオーロラツアー会社のオーロラ・ビレッジは、ティーピーという先住民族のテントが並ぶオーロラ観賞村。目の前が湖になっているので、「ダブルオーロラ」のチャンスが高い。オーロラだけを目当てに行き、町や自然の遊びはバンクーバーやカナディアン・ロッキーで、と割り切るなら、イエローナイフは十分におすすめできる。オーロラ観賞率が世界でも有数というのは、何ものにも代えがたい魅力だから。



写真提供：istock

8

⑧カナディアン・ロッキーのシーズンは9月いっぱいまで。秋なら両方行くことも可能だ



©Ken Phung / shutterstock.com

6

⑥秋でも営業しているオーロラ・ビレッジ (URL: www.aurora-tour.com)



©matthewsinger / shutterstock.com

7

⑦秋のオプション・ツアーでは、巨大なバッファロー保護区へのドライブツアーなどもある

旅のヒント in カナダ

時差: カナダ本土は6つの時間帯に分かれる。ホワイトホースは太平洋標準時間 (PST) で、日本より17時間遅れ。イエローナイフは山岳部標準時間 (MST) で、日本より16時間遅れ。サマータイム時はこれより1時間早くなる。

ビザ: 観光目的で6ヵ月以内の滞在であれば不要。

入国には電子渡航許可証eTAの取得が義務づけられている。

通貨: カナダドル (2018年7月現在CAD1=85.57円)

物価: 日本とほぼ同じくらい。

気候: ホワイトホースとイエローナイフがあるのは、極北地方。1年のうち半分が冬となり、春と秋は非常に短い。秋のオーロラシーズンは8月下旬～10月。紅葉は9月中旬頃がピーク。



詳細は地球の歩き方カナダ編、カナダ西部編、arukoカナダへ

発行: ダイヤモンド・ビッグ社
www.arukikata.co.jp/guidebook

本体: 1,600円+税 (左)
本体: 1,200円+税 (右)

カナダのユースホステル

HI Montreal

ADDRESS: 1030 Rue Mackay, Montreal,
Quebec, H3G 2H1, Canada
TEL: +514-843-3317 FAX: +514-934-3251
E-Mail: montreal@hihostels.ca
ドミトリー: 3500円～ 個室(ツイン): 11000円～
URL: <https://hihostels.com/ja/hostels/hi-montreal?linkid=980028>





つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.14
まとめてダウンロード



Hostelling Magazine × 地球の歩き方.. P14
秋のフィンランド&カナダで
ダブルオーロラを観る!
■Aurora Destinations 01 Finland
■Aurora Destinations 02 Canada



インタビュー P02
女優/有村架純
「また、ここに来たい」
そう思える場所があれば、
前を向いて進んでいける。



トリップアドバイザー P20
耳寄り! 観光NAVI
ラップランドのナイトツアー



Youth Hostel Pick up P08
～煌めきの宝箱、ふくしま～
満天の星空につつまれた癒やしの非日常空間
ユースゲストハウス ATOMA



教えて! 旅GIRL P22



ユースホステル Special Program P12
in 文化放送「レコメン!」



松島むうの晴れときどき旅びより P23